



### 【取組内容】

- 大阪府は、府民や企業など、様々なステークホルダーの自律的なSDGsの推進に資するよう、**「大阪がめざすSDGs先進都市の姿」の明確化**に取り組んでいる。
- 取組を進めるなか、「国際的な日本の評価（SDSN）」と「国内評価（自治体SDGs指標）」を用いて、**大阪府のSDGs達成状況を自己分析し、これまでの政策や、府民、若者、企業の声との整合性を図りながら、重点ゴールの絞り込みを実施。**
- この分析手法は、一定の公表データを流し込むことでSDGsの17のゴールの到達点を可視化できる**「自治体向けのSDGs17ゴールの自己分析モデル」**であり、**様々な自治体SDGsの推進に汎用性がある。**

### SDGs実施指針における実施原則（本アワード評価基準）

普遍性：	SDGsの17のゴールの自己分析モデルは、国内自治体全てにおいて共通の分析が可能という点において普遍性がある。
包摂性：	SDGsの17ゴール全てを視野に自己分析を行うところに包摂性がある。
参画型：	自治体は国民や企業、経済界など様々なステークホルダーをつなぐ役割を担う必要があり、到達点を可視化することは有用。
統合性：	国際的な日本の評価と国内評価を、経済、社会、環境の3側面から統合し、分析することが可能なモデル。
透明性と説明責任：	優先度の絞り込みを行っていく検討過程の透明性、説明責任が図られている。

### ◆自己分析モデルのイメージ

